

(様式2)

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
79	川崎市立 平小 学校	松沢 隆

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
心豊かでたくましく、実践力のある子供の育成 ○元気な子 ○考える子 ○やさしい子 ○がんばる子	○学習を深め確かな知性を育てる(自学・自習) ○行いを振り返り、健全な心身を育てる(自主・自律) ○心を磨き、豊かな感性を育てる(共生・協働) ○保護者・地域に開かれた学校(現代的課題への対応)	○自学・自習の姿勢を育てる ○自主・自律の姿勢を育てる ○共生・協働の姿勢を育てる ○現代的課題への取り組みを推進する ○地域や保護者と一体となり学習環境を整える

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導	○全校で共通のルール of 徹底 ○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○全学年を通じて学習のルールを徹底し、発達状況に応じた規律のある授業が行われた。 ○校内研究では国語、算数に取り組んだ。「つながる」をテーマとし、友達との意見交換や書物などから自分の考えをさらに高めることができた。	○年度ごとに成果と課題とを検討し、次年度への取り組みとしていきたい。子供の考えを引き出し、子供同士で学び学習を進めていけるようなファシリテーターとしての役割を行えるように日々の授業実践を見合ったり、研修の機会を設けたりしていく。
2 教育課程	○平小学校の特色を生かしたカリキュラムの作成	○重点目標である「自学・自習」を実現するために短時間学習を位置づけた。1～4年は国語と算数の学びの基礎基本を重視し、6年は外国語を展開した。 ○地域協力者の畑を借りて、全校児童が栽培活動を行った。協調性や協働性のもと、子供同士の関わりを高めることができた。	○時程の変更を行うことにより1週間内に3コマ位置づけ学習の繋がりをもちたせていく。 ○キャリア在り方生き方教育の一つの取り組みとして栽培活動にとどまらず、食育やSDGsへと学年に応じ展開していく。さらに地域を愛する心も育てたい。
3 児童指導	○児童支援コーディネーターを核とした児童支援体制のさらなる充実化 ○きめ細やかな対応の体制づくり	○児童支援コーディネーターの存在を説明会や懇談会、職員室だより、PTA家庭教育学級等で広報することができた。相談窓口を一本化することができ、情報共有が円滑に進み、早く動き出すことができた。	○児童支援コーディネーターと常に情報を共有していくことで子供たちにとって安心安全な学校を目指していくことにも保護者に寄り添っていく姿勢を示していく。
4 特別支援教育	○対人面、社会性の面で支援が必要な児童への対応の考察と実施 ○	○外部講師を招き、校内研修会を実施した。児童のアセスメントから気になる行動とその発生要因など具体的な方法について見識を高めることができた。	○インクルーシブな教育をさらに構築していくために、一人一人の子供や保護者のニーズを受け止め、居場所の確保や学びの保障に取り組んでいく。
5 児童の安全	○いじめ防止体制強化と児童の精神面を安定させるきめ細やかな配慮の実施 ○養護教諭による保健だよりの発行	○いじめの早期発見と迅速な初期対応のために、随時ケース会議を開いた。教室以外にも児童が安心して学校生活を送ることができることを周知した。 ○保健室からの情報発信により、保護者の健康安全の対する意識を高められた。	○全職員が常にアンテナを張り未然防止にしていた。「いじめは絶対に許さない」という共通認識をもつとともに、子供を最後まで守る姿勢を周知していく。 ○保健だよりのみならず、必要に応じて朝会等で全校児童へ適時指導していく。

6	情報発信 ○地域への情報提供のための各種便り、ホームページ等の有効活用 ○保護者への積極的な情報発信 ○校長室だより、職員室だよりの発行	○地域の方へは学校の諸活動の伝達として紙媒体と即日ホームページに掲載することができた。保護者へは児童の様子や帰校時間等をこまめに配信することで安心につながった。 ○校長室だより、職員室だよりはメールに添付することで保護者の学校への関心を高めた。	○メールによる保護者への伝達や各種たよりの添付など生活様式に合わせてきたが、次年度からはさらに写真なども掲載し、より詳しく学習活動の様子を発信していく。 ○説明会や報告会など動画配信を行っていくことで、感染防止対策にさらに気を付けていきたい。
7	保護者・地域との連携 ○子供を中心にとらえた、学校・地域・保護者の役割の分化 ○地域協力者との積極的なコミュニケーション	○図書ボランティアや学習協力者と教師との事前に役割分担を示すことで、必要な支援、活動のスムーズ化が図れた。 ○地域協力者と積極的に交流を図ることで、学校教育に有意な場所・もの・人の提供を受けることができた。	○コロナ禍における活動の再検討を行いつつ、保護者による学習ボランティアの体制を作り、家庭と連携した学習支援体制を構築していく。 ○地域協力者に対しては学校からの積極的なかわりの体制を継続する。
8	その他 ○体験活動の重視 ○学校業務の効率化推進の継続と教職員の意識改革 ○GIGAスクール構想の推進	○畑の栽培活動や環境学習など身近な生活について多くの地域の方から協力を得ている。 ○校務分掌のデータ等の共有化により、一人一人の作業効率があがり、働き方改革につながった。 ○コロナ禍における登校への不安や出席停止児童に対して積極的なオンライン授業を展開した。	○体験活動の発展的継続を図っていく。 ○教職員の作業効率化と共に子供とも接する時間の確保をしていく。 ○今後も積極的なオンライン授業を展開すると同時に学習場面での双方向の繋がりが行えるような授業改善をしていく。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>○コロナ禍で先の見通しが立たない中、子どもたちを第一に学校運営をされたことに感謝いたします。</p> <p>○地域との関わりについても、コロナ禍による困難が大きいのと思いますが、来年度以降も平小の特色を生かせるよう継続してください。</p>	<p>○学校教育目標の重点である「自学・自習」「自主・自律」「共生・協働」について全教職員で目指す子供の姿を再確認するとともに、全ての保護者に理解できるように、わかりやすい言葉を用いることや、具体的な場面などを積極的に行事などを年間を通して伝えていく努力を継続していく。</p> <p>○一人一人の子供の「学びの保障」の継続としてGIGAスクール構想のステップ2の「つながり」を主体的・対話的で深い学びの視点からも授業改善に取り組んでいく。</p> <p>○一人一人の子供のニーズに応じた支援教育に取り組んでいくこと、いじめの未然防止、早期発見のために全職員で共通認識に立ち、安心・安全な学校環境、学校教育を今後も継続していく。</p>